

評価方法の見直しについて（たたき台）

1 課題

- 自己評価が客観的な評価となっていない。（アウトカム指標となっていない）
- 一方で、事業化はしておらず、県としての取組みを位置付けているものなど、アウトプット指標でしか評価できない事業がある。（例）市町村補助事業、人事上の配置
- 取組、実績（成果）、課題、今後の取組が、評価まとめの一覧からわかりにくく、また、県で評価・記載すべき内容だが、現在は総合評価になっている。

2 見直しの内容

(1) 自己評価

- 出来る限りアウトカム指標となるよう、事業の「効果」を記載する。
※予算資料と突合。
- 事業ごとに、アウトカム（効果、成果）とアウトプット（取組み実績）を分けて、明確にする。
- アウトカムについては、現在の自己評価と同様に評価する。
- アウトプットの事業については、自己評価の評価理由を記載する。

(2) 地域福祉課で一次評価

- 地域福祉課で次により評価…中柱ごとにまとめた様式
 - ①数値目標の達成状況
 - ②支援策ごとの、文章による「取組」「課題」「対応」を作成
 - ③支援策ごとの、成果・実績（文章（箇条書き）と自己評価（a、b、c、d数）
 - ④その他社会環境等を指標
- ※総合評価（ABCD）については、目安を内規で設定。
- 例）[a 100点 b 80点 c 60点 d 40点]として、
A：90点以上 B：90点未満 70点以上 C：70点未満 50点以上 D：50点未満

(3) 委員会で総合評価

- 中柱ごとに総合評価（A、B、C、Dと文章による評価）

※委員会を、毎年5月に実施し、次年度の事業（予算）へ反映できるようにする。

3 見直しのスケジュール

- H29年度中に整理して、H29年度評価から新基準での評価とする。
- H30年度の事業調書を各課に依頼する際は、新基準による様式とする。
- 計画評価・推進等委員会（2月1日）に案を提出。委員の意見により修正して施行する。